

初の議場コンサート
名曲に市民うっとり

狛江市議会の議場を使った初のコンサートが11月27日(日)に催された。

一般財団法人狛江市文化振興事業団と狛江市議会が共催したもの。市内在住のヴァイオリン奏者堀江悟さん、フルート奏者堀江伶子さん夫妻とピアニストの渡辺文子さんが日本の四季メドレーに加えエルガー「愛の挨拶」、カッチーニ「アヴェ・マリア」など6曲を約30分にわたって演奏した。議場は市民など約100人で埋まり、松原俊雄市長、市議会議員も流れる名曲にうっとりとして耳を傾けていた。

ニューヨークの国連の議場で演奏したこともある堀江悟さんは「以前から願っ



議場がコンサート会場に

ていたことが実現してうれしいです。伶子さんは「市の大切な場所での演奏なので少し緊張しました」と話していた。また訪れた市民たちは「想像以上に良い音で驚きました。1回だけでなく、ぜひ続けてもらいたい」と話していた。

厚真町へ165,543円
狛江三中の银杏募金

狛江第三中学校(亀澤信一校長、生徒249人)が学校ぐるみで取り組んでいる银杏募金で集めた165,543

まち

円を、狛江市を通じて北海道胆振東部地震で被害を受けた厚真町へ贈った。

この募金は、雲仙普賢岳噴火をきっかけに被災地救援のため平成3年から毎年行っている。10月初めから校内にあるイチヨウの実を収穫、皮をむいて洗い、乾燥して袋詰めする一連の作業に全校生徒で取り組む。银杏は狛江市民まつりの会場で生徒が行う募金活動の返礼品として渡す。集まった募金の送り先は全校生徒のアンケートで決めており、今年は厚真町に決まった。

12月17日(月)には银杏募金実行委員会委員長の吉村皿紗さん、副委員長の池田悠介さん、菊池響さんと亀澤校長ら6人が狛江市役所を訪れ、松原俊雄市長に募金を手渡した。

吉村さんらは「ことしは银杏が多く採れ、募金も多かった。被災地の人に早く元気になってもらいたい。银杏づくりは臭くて大変だけど、みんなの気持ちがひとつになれる三中を代表する活動なので、これからも続けたい」と話していた。

座長の大塚さんは「仲間づくりや、仕事・家庭以外での第三の居場所づくりを地域ですること、住みやすいまちになり、自身や家庭を大切にすることにもつながります。地域に目を向けるきっかけにするためにも、多くの人に参加してほしい」と呼びかけている。



松原市長(左から2人目)に募金箱を渡す狛江三中银杏募金実行委員会委員

仲間づくりのきっかけに
12日に「狛江☆サミット」

「狛江☆サミット」つな

がろう！仲間 見つけよう！居場所 始めよう！ここから～」(狛江市市民参加と市民協働に関する審議会、狛江市主催)が12日(日)午後1時から3時30分まで中央公民館で開かれる。

仲間や地域とつながり、狛江を暮らしやすいまちにすることを目的に、地域で活動を行っている団体が発表し情報交換する市民フォーラムが毎年開催され、28年から「狛江☆サミット」を実施している。

今回は、同審議会の分科会「市民フォーラム実行委員会」(大塚隆人座長)が、市民公益活動事業補助金と市民協働事業提案制度の採択団体、狛江市市民活動支援センター登録団体の中から選んだ4団体に、世田谷区の区民団体が初めて参加する。事例報告するのは、市内から「子育ての輪」、「狛江視覚障害者の会」、「狛江市ラグビーフットボール協会」、「comaecolor」、世田谷区の「そしがやみちとの遭遇」の5団体。各団体の報告の後、質疑応答を行い、グループに分かれて参加者と意見交換する。

座長の大塚さんは「仲間づくりや、仕事・家庭以外での第三の居場所づくりを地域ですること、住みやすいまちになり、自身や家庭を大切にすることにもつながります。地域に目を向けるきっかけにするためにも、多くの人に参加してほしい」と呼びかけている。

問い合わせは ☎3430-1164 狛江市企画財政部政策室協働調整担当。

多摩川であおぞら自主保育
「狛江おひさまの会」

あおぞら自主保育「狛江

老舗めぐり

◆73◆

都営狛江アパート(狛江団地)の商店街にあるコマエ理容室(和泉本町4-7-27-105)は、昨年に創業50周年を迎えた市内でも古参の理容室。

現店主の関幸一さん(72)と父の健四郎さん(明治44年～昭和54年)、母のうめ子さん(101)の親子3人で創業した。幸一さんは、理容師だった健四郎さんの長男として新宿区上落合で生まれ、昭和30年代半ばに両親が初めて持った練馬区旭丘の理容店で育った。幸一さんは商業高校に進学する一方、理容専門学校で夜間部に1年半通い、実家でインターン修行をして理容師免許を取得した。

ただ、実家の店は顧客があまり多くなかったため、会社に就職、経理を担当した。そうした折、東京都が狛江団地を建設、団地内に開業する店舗付き住居16店舗を募集していることを知った幸一さんたちは「入居戸数が約1,700戸と大規模で、多くの顧客が見込める」と考えて応募した。倍率は高かったが当選し、幸一さんは会社を退職、最新の理容技術を習得するため中央区日本橋の理容室に勤め、約2年間修行した。



多摩川河川敷で遊ぶ子どもたち

おひさまの会」(志村友佳代表)では、週4日、和泉多摩川河川敷などで乳幼児の親が交代で子どもを見守り保育する活動を9年前から続けている。

現在は0歳から就学前の子ども13人が参加、多摩川河川敷で五感をフルに使いながら外遊びを楽しんでいる。大人は大きなケガをしないよう注意しながら、

理容師のついで

店は43年に開店したが、団地は既に第1次入居が終わっており、年末の12月に開店したため、客が詰めかけ多忙を極めた。店には4台の理容イスを置き、幸一さんと両親に加え、同団地内に住む理容師を雇ったが、年末や季節の行事、新学期前などは多くの客が訪れた。当時の狛江団地は幼児や小学校低学年の子どもを持つ若夫婦が多く、子どもの客だけでも毎日30人ほどが来店、新学期前にはさらに増えた。また、土曜午後や日曜日はおとなの客がひっきりなしに訪れ、休憩も取れないほどだったという。

店の経営は軌道に乗ったが、開店3年後に父の健四郎さんが交通事故で足を痛めて引退、母のうめ子さんも10年後に体調を崩して第一線を退いた。幸一さんは、理容研修会で出会った理容師のまさみさん(64)と53年に結婚した。主に男性客は幸一さん、女性客はまさみさんが対応した。子どもが生まれた時は、うめ子さんと幸一さんの妹が家事や子育てをした。

同店は「手入れのいらない楽々ヘア

昭和43年に親子でオープン／出張サービスが高齢者などに好評

けんかなどがあっても極力口出しせず、子どもの気持ちや自分たちで解決する力を大切にしているという。また、季節に応じた工作をしたり、遠足に行くこともある。月1回、親同士でミーティングを開き、活動の方針や子どもの様子について意見を交換する。代表の志村さんは「子どもは主体的に遊ぶことで、想像力や自己肯定感が高まります。信頼できる仲間もでき、さまざまな価値観の中で子育てができます」と話している。

原則として0歳から就学前までの親子対象。参加費

は有償。見学は随時受付。問い合わせ Mkomae.ohisama@gmail.com あおぞら自主保育狛江おひさまの会。

病院ボランティア
慈恵第三病院が募集

東京慈恵会医科大学附属第三病院(和泉本町4丁目)が院内で活動するボランティアを募集している。

活動内容と時間は①院内デイケアなどの手伝い(月・日午後1時30分～3時)②案内所付近での外来患者の案内(月～日午前9時～午後1時(応相談))③小児病棟での本の貸し出



関幸一さん(右)と妻のまさみさん

創り」がモットーで、カット、パーマに加え白髪ぼかし、毛染めなども行っており、肌の手入れを兼ねたレディースシェイビングが女性に人気だ。利用客の大半が団地の住民だが、なかには転居先の市外から訪れる客もある。また、長く利用している客も多く、50年近い人もいる。開店間もない頃に足をケガした客に頼まれ自宅へ出向いて散髪したのをきっかけに、早くから出張サービスや店への送迎を行っており、高齢者や体の不自由な人から好評だ。

同業者組合の活動にも力を注ぎ、最新技術の研修会にも参加している幸一さんは「技術と、お客様とのコミュニケーション力で半世紀続けてこられた。仕事ができることが喜びで、体の続く限り自分の技術をお客様に提供していきたい」と話している。

コマエ理容室 ☎3489-6519 営業時間＝午前9時(日曜8時30分)～午後7時 月曜・第2・3火曜休み。

し・読み聞かせ(日午後6時30分から)(いずれも休診日は除く)。

参加条件は原則18歳以上の心身ともに健康な人で原則として月4回以上、1回3時間以上、3カ月以上継続して活動できる人。

同院ではこれまでもボランティアが活動しており、今回新たに、入院患者の相手を務める院内デイケアを追加した。

申し込み方法などの問い合わせは ☎3430-3612 (1月4日(日)からの月～日(祝日を除く)午前9時～午後5時) 同病院管理課人事係。

日独交流学ぶ講演会

「ヘルマン・ウォルシュケさんの足跡をたどる会(通称・ヘルマンさんの会)」(飯田吉明代表)が、2月2日(日)午前10時30分～正午に中央公民館で講演会「ドイツと国際交流する市民グループに聞く ドイツ・ヴリーツェン市と友好交流協定を結ぶまで」を開催する。

ヘルマンさんは第一次世界大戦のドイツ人捕虜として来日、その後日本に残ってハム・ソーセージなどの食肉加工技術を伝え、昭和20年代後半から10数年間、狛江でハム・ソーセージ製造に携わり、泉龍寺に墓がある。

彼の業績を調べ、後世に伝える活動を行っている同会では、調査の過程で、第二次大戦前にドイツへ渡ってヴリーツェン市で感染症に苦しむ人々の治療にあたり、同地で病没した日本人医師の肥沼信次さんを知った。出身地の八王子市では、市民団体の「Dr. 肥沼の偉業を後世に伝える会」が「八王子の野口英世」と呼ばれる肥沼さんの功績を伝える活動を10数年間行い、八王子市は市制100周年を迎えた平成29年にヴリーツェン市と友好交流協定を結んだ。

ヘルマンさんの会では、今後の国際交流の参考にしようとして講演会を開くことにしたもので、「伝える会」代表の塚本回子さんが講演、肥沼さんの業績を紹介した紙芝居を上演する。定員70人で参加は自由。入場無料。

問い合わせ ☎3489-0222 飯田さん。